

提 言

トップが旗を振り、 職員を育て組合員と理念を 共有する



三角 修

JA教育文化活動専門講師 JA菊池 前代表理事組合長
みすみ・おさむ／1953年熊本県生まれ。民間企業勤務を経て、就農しカスミソウを栽培する。2002年JA菊池非常勤理事、2008年代表理事副組合長を経て、2014年代表理事組合長に就任。2023年退任後、家の光協会のJA教育文化活動専門講師を務める。

JA組合長時代に力を入れてきたことが、協同組合理念を実践する職員の人材育成である。アイデアと工夫を凝らし、職員のモチベーションアップにつなげてきた。さらに、トップとしてめざすべき方向をシンプルなメッセージで発信。自身の経験をとおして、理念を次代に受け継いでいくための職員教育がなにより重要だと語る。

■被災地への支援で相互扶助の精神を発揮

元日、能登半島地震が起きた。とっさに8年前の熊本地震の思いがよみがえり、早く救出しないと屋根の重さで人も牛も圧死すると思った。熊本地震にはなかった津波が押し寄せてくるという。そして真冬である。熊本で亡くなった方よりも多い240人以上の方が犠牲となられた。ご冥福をお祈りいたします。

熊本地震の時に飲み水がない、1日1個のにぎり飯。「応援頼む」とJA菊池に連絡が入ったのは発災から2日目。集落営農組織からであり他の地区の組織と連



J A組織を活性化するうえで職員教育は重要な活動であると語る

絡がとれないのでJ Aから連絡をとって欲しいと。2、3の地区で食料が欲しいと要請があった。発災3、4日目頃からJ A女性部より炊き出しをするので応援が欲しいとの要請があり7、8か所でだご汁や豚汁を提供したものだ。

これらの行動が協同組合の理念に基づくものであると思う。「一人は万人のために万人は一人のために」。そこには昔から根づいた文化があり、地域住民、組合員が肌で覚えている「相互扶助」の精神であると思う。協同組合理念の重要さがしだいに社会情勢の変化等により認識が薄くなってきている。それを解決するために組合員と一番の接点がある職員を育て、その職員が組合員と話し合うことにより理念を共有することが必要である。そのためにはトップを含む役員がつねに職員に寄り添い、的確なアドバイスをすることが大切である。

■職員による小集団活動で活動を生む

もともとJ A菊池は教育に熱心である。平成3～平成10年の間、職員教育専門の常勤講師として川崎盤通先生を招聘し、平成21年まで非常勤として講師をしていただいた。その後は私なりにとり入れた「自律創造型職員」の育成。自分で考え自分で行動する職員を育成したいとの思いで「小集団活動」をとり入れた。これは5～10人のグループを部、課でつくり、テーマは自由。1年間通じて活動を行い優秀な4、5グループを表彰し職員全体研修で発表するもの。このようにしてJ A組織の中で、今何が求められているか、地域の結びつきとは何かなど、職員みずから学習する。そのことによって地域の中、またJ Aの中で生かされていることを確認し感謝する。それがすなわち協同組合理念、教育文化を熟慮する導線になると考える。

このように小集団活動を通して4年を過ぎる頃には職員の目の輝きは増し、テーマを地域へ広げてみてはどうだろうかとアドバイスをしたところであった。小学生に対しての横断歩道での旗振り、中高生と一緒に花の苗作りなど、素晴らしい企画があった。また食農教育としてJ A全体で取り組んでいるものとして小学2～6年生を対象に80人募集している「まんまキッズスクール」。田植え、乳しぼり、乗馬等年6回開催しており定員に対し3倍の応募があり楽しみにしてもらっている。青年部、女性部が教育委員会、幼稚園、小学校、中学校に呼びかけて実施しているのが「子どもたちのための景色の見える食卓づくり推進シンポジウム」である。全国の著名な先生を迎えて国産食料のすばらしさ、農業の多面性

等を理解してもらっている。全国的にも特筆されるものである。

■ 漢字一字でシンプルに思いを伝える

組合長として例年、職員の意識向上に向けて目標を掲げ訓示をしてきたが、シンプルにわかりやすく理解してもらうにはどうしたらよいかと考え漢字一字で表すようにした。組合長1年目の平成27年正月は自律創造型職員の「創」。28年は自己改革への挑戦の「挑」。29年は人が育つJAの「育」。30年はJA菊池30周年の積み立てられたものに感謝し積土成山から「積」。31(令和元)年はSDGsで持続可能な日本の農業、菊池の農業という思いで「続」。令和2年は唯一生き残るのは変化できる者であるとしたダーウィンの進化論から「変」。3年はコロナ禍の中、新しい考え方、新しい常態、新しい生活というニューノーマルから「新」。4年はJA熊本県域構想について座談会等で熟議するとの考えから「熟」。5年は熟議したものを基に県域構想の賛否決定、それを一段と熟成させることで「成」とした。これらの一字を額に入れて事業所に掲げてもらっている。一つのガバナンスと考えた。

トップが旗を振って方向性を示し職員に理解してもらい、それを実践することにより組合員、地域住民活動は生まれるものである。やはり職員を育てることがもっとも大切である。

ことわざに「一年先を楽しむなら花の種を蒔きなさい、十年先を楽しむなら木を植えなさい、百年先に幸せを求めるなら人を育てなさい」とあるように。